

□優先度評価 適用事例1

住宅地を通過する道路沿いの用水路の場合

評価分類	番号	評価項目	高 ← リスク → 低			評価
			3	2	1	
転落リスク	(1)	水路底と隣接する路面等との高さ	高い (目安: 2.0m以上)	高い (目安: 1.0m以上)	低い (目安: 1.0m未満)	2
	(2)	水路幅	—	広い (目安: 1.0m以上)	狭い (目安: 1.0m未満)	2
	(3)	水の流れ	—	速い (目安: 1.0m/s以上)	ゆるやか (目安: 1.0m/s未満)	1
	評価点(合計)		(1)(2)(3)の点数の合計			5
	転落リスク評価		A評価:7点、B評価4点～6点、C評価3点			(B)
評価分類	番号	評価項目	高 ← リスク → 低			評価
			3	2	1	
周辺環境	(4)	水路沿いの視認性、足もと状況	視認性が悪い。または、足もとが極めて狭く凹凸も大きい。	視認性に乏しい。または、足もとが狭く、凹凸もある。	視認性、足もとの安全性に問題はない。	2
	(5)	高齢者・児童等が歩行・自転車走行する頻度	高い	普通	低い	3
	(6)	住宅地や周辺施設等の考慮	考慮の必要性大	考慮の必要性あり	考慮なし	3
	評価点(合計)		(4)(5)(6)の点数の合計			8
	周辺環境評価		A評価:7点以上、B評価:4～6点、C評価3点以下			(A)
優先度評価		優先度評価判定表により評価を行う。			(A)	
特記事項 (現地の事情で考慮した点など)		・路肩に白線がないため、水路境界の視認性に乏しい。特に冬期間の積雪により、更に視認性は悪化すると思われる。				



対策前

住宅地を通過する道路沿いの用水路の場合

優先度評価判定表

		転落リスク		
		A	B	C
周辺環境	A	A	(A)	B
	B	B	B	B
	C	B	C	C



対策後

□優先度評価 適用事例2

中山間地域の道路に隣接する法面の大きな末端水路の場合

評価分類	番号	評価項目	高 ← リスク → 低			評価	
			3	2	1		
転落リスク	(1)	水路底と隣接する路面等との高さ	高い (目安:2.0m以上)	高い (目安:1.0m以上)	低い (目安:1.0m未満)	2	
	(2)	水路幅	—	広い (目安:1.0m以上)	狭い (目安:1.0m未満)	1	
	(3)	水の流れ	—	速い (目安:1.0m/s以上)	ゆるやか (目安:1.0m/s未満)	2	
	評価点(合計)		(1)(2)(3)の点数の合計				5
	転落リスク評価		A評価:7点、B評価4点～6点、C評価3点				B
評価分類	番号	評価項目	高 ← リスク → 低			評価	
			3	2	1		
周辺環境	(4)	水路沿いの視認性、足もとと状況	視認性が悪い。または、足もとが極めて狭く凹凸も大きい。	視認性に乏しい。または、足もとが狭く、凹凸もある。	視認性、足もとの安全性に問題はない。	2	
	(5)	高齢者・児童等が歩行・自転車走行する頻度	高い	普通	低い	2	
	(6)	住宅地や周辺施設等の考慮	考慮の必要性大	考慮の必要性あり	考慮なし	2	
	評価点(合計)		(4)(5)(6)の点数の合計				6
	周辺環境評価		A評価:7点以上、B評価:4～6点、C評価3点以下				B
優先度評価		優先度評価判定表により評価を行う。				B	
特記事項 (現地の事情で考慮した点など)		・街灯照明がなく、夜間は視認性に乏しい。特に冬期間の積雪により、更に視認性は悪化すると思われる。					



道路と水路の間に法面がある場合

優先度評価判定表

		転落リスク		
		A	B	C
周辺環境	A	A	A	B
	B	B	B	B
	C	B	C	C

□優先度評価 適用事例3

平野部の道路と水路上部の高さが同じ高さの末端水路の場合

評価分類	番号	評価項目	高 ← リスク → 低			評価
			3	2	1	
転落リスク	(1)	水路底と隣接する路面等との高さ	高い (目安:2.0m以上)	高い (目安:1.0m以上)	低い (目安:1.0m未満)	1
	(2)	水路幅	—	広い (目安:1.0m以上)	狭い (目安:1.0m未満)	1
	(3)	水の流れ	—	速い (目安:1.0m/s以上)	ゆるやか (目安:1.0m/s未満)	2
	評価点(合計)		(1)(2)(3)の点数の合計			4
	転落リスク評価		A評価:7点、B評価4点～6点、C評価3点			<b>B</b>
評価分類	番号	評価項目	高 ← リスク → 低			評価
			3	2	1	
周辺環境	(4)	水路沿いの視認性、足もとと状況	視認性が悪い。 または、足もとが極めて狭く凹凸も大きい。	視認性に乏しい。 または、足もとが狭く、凹凸もある。	視認性、足もとの安全性に問題は無い。	1
	(5)	高齢者・児童等が歩行・自転車走行する頻度	高い	普通	低い	1
	(6)	住宅地や周辺施設等の考慮	考慮の必要性大	考慮の必要性あり	考慮なし	1
	評価点(合計)		(4)(5)(6)の点数の合計			3
	周辺環境評価		A評価:7点以上、B評価:4～6点、C評価3点以下			<b>C</b>
優先度評価		優先度評価判定表により評価を行う。			<b>C</b>	
特記事項 (現地事情で考慮した点など)		・街灯照明はないが、路肩に白線と視線誘導標があるため、水路沿いの視認性は特に問題がないと思われる。				



道路と水路上部が同じ高さの場合

優先度評価判定表

		転落リスク		
		A	B	C
周辺環境	A	A	A	B
	B	B	B	B
	C	B	<b>C</b>	C